日蓮大聖人御書全集

さどごかんきしやう

佐渡御勘気抄

新版
1195
S
1196

さどごかんきしよう

佐渡御勘気抄

ぶんえい

ねん

文永 8 年 (71)

がつ

10 月

さい

50 歳

せいちようじちゆう

清澄寺知友

くがつじゆうににち

ごかんき

こうむ

ことしじゆうがつとおか

さどのくに

九月十二日に御勘気を蒙つて、今年十月十日、佐渡国へ

罷 そうろう

まかり候なり。

もと

がくもん

そうら

ぶつきよう

極

ほとけ

成

本より学文し候いしことは、仏教をきわめて仏になり、

おん

ひと

助

おも

ほとけ

みち

かなら

しんみよう

恩ある人をもたすけんと思う。仏になる道は、必ず身命を

捨

こと

ほとけ

そうろう

推

すつるほどの事ありてこそ、仏にはなり候らめとおし

量

すで

きようもん

あつく

めり

とうじよう

がりやく

はからる。既に経文のごとく「悪口・罵詈」「刀杖・瓦礫」

ひんずい

と

目

あ

そうろう

「しばしば擯出せられん」と説かれて、かかるめに値い候

ほけきよう 読

そうろう

しんじん

こそ法華経をよむにて 候らめと、いよいよ信心もおこり、

ごしよう

頼

そうろう

し

そうら

かなら

おのおの

助

後生もたのもしく 候。死して候わば、必ず各々をもたす

けたてまつるべし。

てんじく

ししそんじゃ

もう

ひと

だんみらおう

くび

天竺に、師子尊者と申せし人は檀弥羅王に頸をはねられ、

だいばぼさつ

げどう

突

殺

かんど

じく

どうしよう

もう

提婆菩薩は外道につきころさる。漢土に、竺の道生と申せ

ひと そざん

もう

ところ

流

ほうどうさんぞう

かお

火

印

し人は蘇山と申す所へながさる。法道三蔵は面にかなやき

焼

こうなん

もう

ところ

ほうどうさんぞう

かお

みな

ほけきよう

をやかれて、江南と申す所へながされき。これ皆、法華経

徳

ぶつぼう

のとく、仏法のゆえなり。

にちれん

にほんこく

とういとうじよう

あわのくに

うみべ

せんだら

こ

日蓮は日本国の東夷東条、安房国の海辺の旃陀羅が子な

朽 み ほけきよう おんゆえ す

り。いたずらにくちん身を法華経の御故に捨てまいらせん

いし こがね 替 おのおの 歎 たも

こと、あに石に金をかうるにあらずや。各々なげかせ給う

どうぜんのごぼう もう 聞

べからず。道善御房にも、こう申しきかせまいらせ給うべ

りようけ あまごぜん おん 文 ぞん そうら

し。領家の尼御前へも、御ふみと存じ候えども、まず、か

み 文 思 もう

かる身のふみなれば、なつかしやおぼさざるらんと申し

びんぎ おのおのおんものがた もう たま そうら

ぬると、便宜あらば各々御物語り申させ給い候え。

じゆうがつ にち にちれん かおう

十月 日 日蓮 花押